



協和地域で建築構造材などの製材加工を行っているのが株式会社門脇木材（門脇桂孝代表取締役）です。

同社は立ち木を伐採して製材会社に販売する業者として1990（平成2）年に仙北市田沢湖で創業しました。1995（平成7）年には製材事業、1997（平成9）年には造林事業を開始。2008（平成20）年には製材などを行う協同組合フォレスト秋田を関係事業者と協力して男鹿市に設立しました。輸送コストを縮減するため、仙北市田沢湖の同社工場と同組合の中間地点に位置し、森林資源にも恵まれた協和地域に、2011（平成23）



木は全部使いきる

株式会社門脇木材協和工場〔協和〕

業種／建築構造材などの製材加工

従業員数／32人

※今回の案内人は代表取締役の門脇桂孝さんです。

年、協和工場を設立しました。

県内では、1968年（昭和43）年から年間1万haの造林が7年間に渡り行われました。その頃植えられた樹齢50年を超える径の大きな杉（大径材）は、加工するための設備が限られます。同社では協和工場に、それら大径材を加工できる最新型の製材機器を導入。2019（平成31）年4月から稼働しています。

発電などに使われるバイオマスチップの製造会社を設立するなど、木材資源のさまざまな有効活用に挑戦し続けている同社。「木は全部使いきる」という企業理念に基づき、質の高い製品を国内外に供給しています。